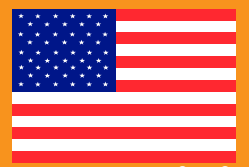


# アメリカ生活14年目！



## 若松伸子先生にインタビュー！！

大学卒業後、渡米し、PhD(博士)、米国獣医病理専門医(解剖病理)、米国家禽獣医専門医を取得した若松伸子先生。現在はルイジアナ州立大学で教鞭をとりながら大学付属のルイジアナ動物診断センターで大小動物、鳥類、動物園動物等の病理診断を行っています。今年で14年目となるアメリカでのご経験について伺いました。

### 若松伸子先生 経歴

- 2000年 北里大学獣医学科卒業
- 2001-2005年 ジョージア大学博士課程,大学院生、博士課程
- 2002-2005年 ジョージア大学解剖病理学,研修医(レジデント)
- 2005-2007年 国立環境健康科学研究所(NIEHS),ポスドク
- 2007年 米国獣医病理専門医(ACVP、解剖病理)取得
- 2007-2012年 ルイジアナ州立大学,病理学助教授
- 2012年-現在 ルイジアナ州立大学,病理学准教授
- 2013年 米国家禽獣医専門医(ACPV)取得



### なぜ北里大学卒業後、アメリカに行こうと思ったのですか？

ひとりの病理医の先生に憧れたのがきっかけです。5年生のときにジョージア大学に2週間研修に訪れ,そのときに出会ったDr. Corrie Brownに感銘を受け、その先生の下で院生をするため、渡米することを決意しました。Dr. Brownは大学教授になる前は、USDA(日本でいう農林水産省)の研究所の病理医で、現在も年の半分近くは海外で活躍されています。その先生に出会うまでは海外で勉強したいと漠然と思っていたのですが、まずは日本で大学院進学または動物病院に勤めることを考えていました。病理学を専門にしたのは、将来感染症の研究で野生動物に関わる仕事をしたかったからです。(野生動物の研究には縁がなく、現在は主にデング出血熱の研究に関わっています。)

### アメリカでの生活で楽しいことは何ですか？

アメリカでの生活で楽しいことは、色々な国から来た人たちと出会えることです。大学では先生方も学生さんたちも色々な国から来ていますし、大学以外でも多くの外国からの方たちに会う機会が多いです。考え方や文化の違いに驚かされることも多々あります。

## 卒業後すぐに渡米して良かったと感じていますか？

特に良かったと思うことが3点あります。一つ目は、アメリカの大学院は授業が充実していることです。自分の専門以外のことも幅広く学ぶことが出来ました。二つ目は、USDAとの共同研究で博士課程の研究をおこなったので、大規模な感染実験が出来たことです。三つ目は、研修医(レジデント)として多くの症例を見ることによって病理診断の基礎を積む事が出来たことです。アメリカでは研究を行う大学院生と病理専門医になるためのトレーニングを受ける研修医は分かれています。同時期に院生と研修医になることが出来て、研究と診断の両面で多くの経験を積む事が出来ました。

## 海外に出たいと考えている学生に時期も含めて何かアドバイスはありますか？

将来アメリカでずっと働きたい、特に大学で教える立場になりたいと考えているならば、アメリカで大学院を出ることをお勧めします。就職するときに有利だということもありますが、自分自身が経験することでアメリカの大学、大学院のことが知ることが出来ます。日本に帰国することを前提に考えているのであれば、日本で経験を積んでから2~3年アメリカに行くというかたちもいいと思います。

## 様々な国の人々と出会い、日本人の長所、短所はどんなことだと思われませんか？

日本人の長所は勤勉さ、真面目さで、仕事をきちんとこなす点はとて素晴らしいことだと思います。弱点は語学力です。アジアのなかでも韓国や中国の方が英語力は上です。人との交わりが苦手な人も多いので、人の輪にどんどん入っていけるかどうかアメリカでは重要です。

## 若松先生の英語力アップのコツは何ですか？

英語力は研修医をすることにより伸びたと思います。海外生活の経験はなく、学生時代は英語が得意なほうではありませんでした。大学院生の立場では研究室内の小さい集団での同じ人とのコミュニケーションでしたが、研修医では学生に教える立場ですし、臨床医の先生方とのやりとりが必須でした。人と話さなければいけないという状況になって英語力が伸びました。今は意志の疎通はあまり問題ありませんが、アメリカ南部のなまりには苦労しています。

## 獣医学を学ぶには日本よりアメリカのほうがいいのですか？

日本の獣医学が遅れているとは思いません。研究や技術の上では日本が優れている事も多くあります。ですが臨床医を育てる教育はアメリカの方が上だと思います。卒業後すぐに臨床医として働けるまでにトレーニングして卒業させます。また、獣医師になった後の研修医制度(インターンとレジデント)が非常に充実しており、専門医として知識をつけたいのならアメリカ研修は一つの手だと思います。

## 先生が専門とすると病理学の面白さは何ですか？

私は、病理学は推理小説のようなものだと思っています。臨床症状や血液検査の結果をもとに推理を進めていき、病理解剖による肉眼所見と顕微鏡下での組織の変化、また免疫染色、細菌培養、毒物検査などによってその推理を証拠づけしていきます。もちろん未解決事件(症例)にも多くあたります。病理医が最終的な診断を下すことで、家族のように大切にしていた動物の死を飼い主さんたちにきちんと受け止めてもらうことが出来ることもあります。臨床医の先生達が救えなかった命を将来に生かすこともわれわれの仕事です。産業動物では、初期に診断を下すことで病気の大発生を止めるというのも大きな病理医の役割です。病理医の仕事は、他の獣医師と同じようにとても責任の重い仕事ではありますが、とてもやりがいのある仕事です。

## 先生の今後の目標を教えてください。

病理専門医と家禽専門医の両方を生かした仕事をしていきたいです。家禽(鶏、七面鳥、鴨など)の病気の大発生は個人で飼っている鳥から広がることが多くあります。飼い主の知識不足や近くの獣医師で診断できないことにより対応が遅れることがあります。今後、病理診断のみではなく、飼い主に正しい知識を広めていくこと、また獣医師の卵たちの教育に力を入れたいと思っています。また、家禽のみではなく小鳥、野鳥なども含めた鳥病理医として経験を積んでいきたいです。

今は日本に帰る事は考えていません。自分がリタイアする頃になったら、食糧不足で困っている地域で鶏の飼育を広めることが夢です。

## 私たち獣医学生にメッセージを！

獣医師には色々な仕事があります。学生の間にいるいろんな人に出会ってたくさん話をしてみてください。人との出会いを大切に！



お忙しいなか丁寧に質問に答えてくださった若松先生、ありがとうございました。現状に満足せず、更なる目標を掲げ、アメリカで活躍される若松先生にとっても感銘を受けました。留学や海外で働くことに興味があるみなさん、是非若松先生のお話を参考にしてみてください！

編集 北里大学 2年 佐倉由美

### \* 補足

専門医になるための研修医はインターンとレジデントがあり、獣医師になったばかりだと、はじめの1年間はインターン、その後にレジデント(病理だと3年間、専門により2年だったりする)を経験する。病理の場合は、病理のインターンというのではなく、内科などでインターンをした後、病理のレジデントになるか、インターンなしでレジデントになったりする。若松先生はレジデントをされた。